

NCPタイムズ

Nihon CellonPack Times

発行所
日本セロンパック株式会社
大阪本社
〒540-0022
大阪市中央区糸屋町1-4-7
TEL.06-6941-8851
FAX.06-6943-8855

NCP
第8号

2012.10.15発行

Times

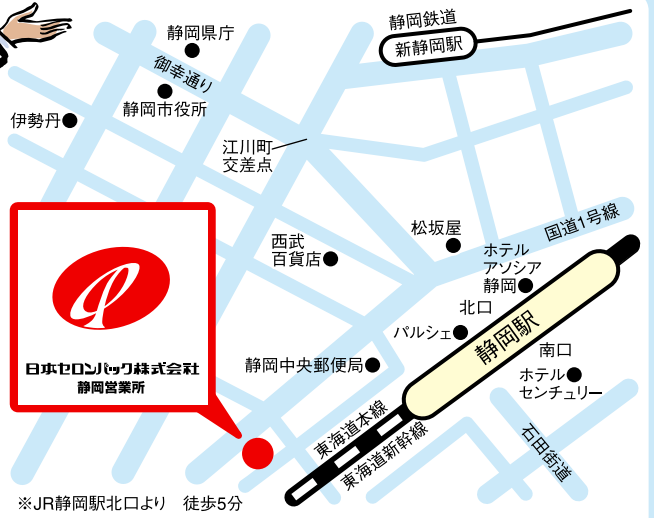
トピックス1,2,3 TOPIX



静岡営業所移転のご案内

平成24年8月15日より静岡営業所を静岡駅前に移転致しました。以前は静岡駅より車で20分程度掛かり、得意先様をはじめ仕入先様にもご足労をお掛けしておりましたが、今回駅から徒歩10分の圏内に移転致しました。スタッフ一同心機一転頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひ静岡にお越しの際には、お気軽にお寄り下さいませ。(静岡営業所・野田 修)

静岡駅から徒歩で
アクセス可能になりました。



※JR静岡駅北口より 徒歩5分

日本セロンパック株式会社 静岡営業所

〒420-0851
静岡市葵区黒金町11-7 三井生命静岡駅前ビル8階-J室
TEL 054-201-9252 FAX 054-255-8677

海外研修を終えて

平成24年9月8日より約1週間、マレーシア・タイでの海外研修に参加しました。マレーシアでは協力工場の視察に同行し、タイでは弊社得意先現地法人への商談に同行しました。まず、マレーシアの協力工場は、設備面では国内と同等レベルで、QC・品質管理体制もISO9001を取得されており、設備面・管理体制は国内工場と同レベルだと感じました。しかし、作業者の認識力・入室管理・衛生面・5S(整理整頓)は、まだまだ国内と比べると差があるように思います。例えば入室管理にしてもせっかく図解で表示しているのに、その作業をする意味を本当に理解できているのか?印刷機・ラミネート機など、機械自体は整理整頓してるのに、周りや、裏に回ると余計な物があるなど、非常にもったいないと思いました。今後弊社から作業員への明確な指示・指導や意識改革を指導することによりもっと良い工場になると感じました。

タイでは現地法人の方々への商談に同行しました。現地での包装材料の悩みはシール性が悪い・開封製が悪いなど国内と同じような悩みでした。国内とまったく違う悩みは作業員の国民性・人間性には相当悩まれているようです。彼らに理解してもらうには相当努力されているように感じました。逆にどのように指導しているか教えればよいのではとも感じました。私自身、研修に参加するまでは包装材料は国内生産が絶対と思っておりましたが研修を終えて、海外生産も十分に検討できると感じました。まだまだ改善指導すべき部分はありますが、取引先の要望・ニーズに対応できるようになれば研修での経験・情報を今後の営業活動に取入れ活動してまいりたいと思います。

(営業部・上路 喜弘)



✓ 海外フィルムについて

弊社の海外フィルムの近況についてご報告させていただきます。前回、NCPタイムズ4号でも述べていましたPETフィルム及びVMCPPIは引き続き継続購入しております。アルミ箔についてはロングランテストの結果、2012年1月から正式の購入を開始致しました。アルミ箔は酸化する傾向がありますので在庫調整及び納期の対応が現在課題になっております。VMPETの輸入は、品質を改良したものでお客様の協力もあり再チャレンジしたところ一部の商品にて採用になり現在購入することになりました。最近のもっとも新しい情報としてましてはPETフィルムの薄肉タイプ9 μ （市場では12 μ がもっとも使用されております）と乳白CPPのテストを現在、検討中です。まだまだ、いろいろと問題点はありますが使用出来るものと出来ないものを見極め海外フィルムの使用にトライして行きたいと思っております。



■ タイ/バンコクに現地法人を設立準備中

今年4月に設立いたしました中国/上海の「勢容商貿(上海)有限公司」に続きまして、2013年1月の営業開始を目指し、タイ/バンコクに現地法人を設立準備中です。海外事業部/光富部長が中心となり、アセアンに展開されている現地日系企業等の軟包材ニーズ対応強化や日本国内向け海外製品の供給態勢を強化したいと考えています。その為にも本社生産部と協働で、マレーシア協力工場の生産態勢や品質保証態勢の充実を目指しています。また現地フィルムメーカーからの調達活動も積極的に行い、アセアンからの海外フィルム供給態勢を構築したいと思っております。是非とも国内営業担当にご相談ください。弊社国内外の役職員が一丸となり、最適な軟包材の供給態勢を構築していく所存です。



DESIGN
ROOM



きる

よう努めております。ぜひ、一度弊社デザイン室をお試しく下さい。